

広土会新聞

第25号

2021.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

2020 年度を振り返って



広土会会長
福原 輝幸

2020年、私にとっては広島工業大学勤務の最後の年、人生節目の1年となりました。本紙面では2020年を振り返り、大学の状況や実感した広土会の素晴らしさなどをお伝えします。

1. カリキュラムの改正

昨年度から新しい教育プログラム（HIT2024）が始まり、その目玉として社会実践教育科目が前期および後期に設けられ、それぞれ週2回行われました。この目的は従来の教育プログラム（HIT2016）の柱である専門力と人間力に加え、社会に出た時に問題対応できるような実践力を持った学生の育成にあります。ただ、社会が学生に何を求めるのか、そのためには何をすべきなのか、といった課題やアイデアを社会に送り出す大学側だけで考えるには限度があると思います。学生さんにとってより良いプログラムおよび他大学にはないユニークな仕組みを作るのであれば、学生を受け入れる社会の側や同窓会と大学の連携が望まれます。真に社会で活躍できる卒業生を輩出するためには、今まで以上に専門力を身に付けることが大切であると個人的には思っています。

2. 新型コロナウイルス感染の影響

皆様が新型コロナ感染で生活が一変されたように、大学も大きく変わりました。2020年3月、鶴記念体育館での卒業式典は中止となり、卒業生は学科ごとに指定された教室に集まって学長や総長の挨拶をモニターで聞いて終わりとなりました。学科の謝恩会も中止となりました。卒業生にとっては何とも寂しい最後の年であったに違いありません。一方、4月に入学した新入生との初顔合わせは10月になりました。前期はオンライン授業となり、主に教員は動画を作成し、それを学生が見て理解する方式になりました。退職する年に今までやったこともない教育をすることになり、当初は講義がうまくできるかどうか不安でした。でも、今は貴重な経験をしたと思っています。講義は5月中旬から始まり、1.5か月の遅れを取り戻すために祝祭日も休みなしでした。前期試験はありませんで

した。お盆休みは暦通りで、お盆明けから建設工学実験や測量実習などの対面授業が始まりました。3密を避けることに加え猛暑が重なり、実験内容を変更せざるを得ませんでした。後期は10月から対面授業が始まったのですがそれも束の間、年明けには再びオンライン授業になりました。最後にオンライン授業の個人的感想ですが、講義は一方通行の感があって（学生さんからのレスポンスがなくて）、何かすっきりしない印象でした。

卒業研究にも影響が出ました。春先の2か月間は卒研生も大学に来ることが許されなかったため、卒業研究の内容変更にも苦労された先生は多かったと思います。特に実験系の先生は望むような実験ができなかったのではないのでしょうか。

就職活動も制限があり、直接企業と面接、面談する機会は減りました。他の工学分野は分かりませんが、土木分野においては新型コロナウイルスが就職率を下げた感はありませんでした。このことが学生さんの向学心（勉強しなければ就職ができないという気持ち）を低下させるのではないかと危惧しています。

3. 広土会の絆

個人的には嬉しいサプライズがありました。4年前に広島工業大学にお世話になって以来、国道54号上根バイパスの凍結予測の研究を行ってきました。この研究が広土会の絆によって支援されてきたことを紹介します。上根バイパスは可部の北にあり、高架橋、橋、周囲の山による日陰などで凍結しやすい区間です。ここを研究対象にしてサーマルマッピング（車に乗って路面の温度を路線に沿って測定）をやりたいと考えていました。大学に帰って来たばかりの時に色々な方が研究室にられました。その中の一人にこの凍結予測の話をしたところ、対象区間はF道路が管理していることが分かりました。有り難いことに2、3年後の後輩（Hさん）がその会社の管理職にいました。そこで、彼にサーマルマッピングに関して支援をお願いしたところ、快く引き受けて頂きました。国交省との連携、実測時の車両の後方警備など、多くの支援をF道路会社から受けたお陰でプロジェクトがスタートしました。広土会との絆はこれで終わリません。

さらに驚いたことが昨年の9月に起こりました。最後のサーマルマッピングを始めるこの日、現場でF道路会社から今回の後尾警戒車両を担当して頂くYさんを紹介されました。Yさんに「広島工業大学の福原です。宜しくお願いします。」と挨拶を終えて車に戻

ろうとした時、Yさんが突然「島先生は元気になっておられるか」と私に尋ねて来られました。続けてYさんは、「私は土木工学科の出身で、2期の卒業」と言われました。「ええ！」と思わず声が出ました。プロジェクト最後で先輩にお世話になるとは想像だにしていませんでした。暑かった2日間、Yさんはサーマルマッピングの安全な遂行を支援して頂きました。休憩時間、車の中にいるとYさんが来られ、これをどうぞと冷たい缶コーヒーを私どものメンバー4人に差し入れして下さいました。本来ならこちらがなすべき配慮を逆に受けて、先輩のコーヒーで心が癒されました。サプライズはこれだけではありません。

実験当初からいつも休憩にT建設興業の駐車場をお借りしていました。休憩の時、Yさんから「実はこの会社は私と同期のTさんの会社である」ことを教えてもらいました。これでさらにびっくり。今まで何回も駐車させてもらっていたにも拘らず、お礼や挨拶をしなかったことを恥じました。それで直ぐに事務所に行き、その場におられたTさんの奥様に、私はTさんの後輩であることを伝えました。その後、今度は奥様から「これを飲んで頑張ってください」とお茶や栄養ドリンクの差し入れを受けました。これも本来なら駐車させてもらっている私がTさんになすべき礼儀なのに、またしても逆になってしまいました。本当に同窓会って有り難いものだなあ、とつくづく感じた次第です。先輩のTさんおよびYさんと昔話をするのができ、短い時間でしたが古き良き学生時代に帰ることができました。広土会のお陰でこんなにも仕事に気持ちよく運び、楽しい2日間を過ごすことができました。退職年に起こったハプニング・サプライズ、これが広土会の絆だ、と実感しました。

4. 学科の人事報告

昨年4月から環境土木工学科の新しい学科長としてコンクリートが専門の竹田先生が就任されました。また、石垣先生が10月より教授に昇格されました。

5. 謝辞

この紙面をお借りし、私の就任時から学科長として広土会に協力して頂いた石井先生、副会長の太東先生、事務局の村中先生に感謝申し上げます。また、お世話になった広土会の皆様および環境土木工学科の教職員の方々にお礼を申し上げます。最後に皆様、広土会誌を読んで頂いて有難うございました。

道路埋設設計 建設大臣認定施設
PCボックスカルバート ザ・ウォール（H=5.0m）



本社 〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23 (082) 507-2757 (代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府270 (082) 432-4132 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (084) 925-8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130 (083) 973-3533 (代)
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124 (代)
本店 〒699-5133 広島県益田市神田町口615 (0856) 25-2380 (代)
工場 広島・江津・益田

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



代表取締役 山本 晴樹

本社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
ア・バンビュラウド7F FAX(082)511-4521
営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州
事業所 黒瀬
ホームページ <http://www.yoshin-const.co.jp/>



総合建設コンサルタント
株式会社 ヒロコ

代表取締役社長 下 花 眞 二

本社 〒734-0011
広島市南区宇品海岸三丁目13番28号
TEL(082)250-8515(代表)

支部だより



近況報告

関西支部（22期生）

綱本 将

広土会会員の皆様、第22期（平成2年3月卒）の綱本（ツナモト）と申します。

私が在学中は、入学年度（1986年入学）をもって「86会」と呼ばれることが多く、今回の原稿執筆を拝命して、まず自分が期生だったかを指折り数えて確認するなど、情けない状況でした。近況報告ということですが、とても近況というほど最近のことばかりではありませんがご容赦ください。

私は、自らを器用な人間ではないと定義しており、卒業の際にご縁のあった日本橋梁株式会社に現在も勤めております。私の親はいわゆる転勤族で、大学入学までに4回転居を経験しました。その点については特に恨み節はないのですが、やはり就職活動の際には、異動の無い安定した仕事が良いと考え、工場で製品を作っている我が社を選択したのを覚えています。しかし、人生とは思いうようにいかないもので、当時は見た目も精悍（現在はブヨブヨですが）だったためか、製作した橋梁を現地に架ける工事の部署に配属となりました。

当時を振り返ると、思い通りにはいかなかったものの、入社した頃は特に悲観的にもならず、とにかく早く一人前になる事だけを考え、日々仕事に取り組んでいたように思います。工事の仕事は、まさに「ザ土木」といった感じで、自宅や会社からは離れ、同じ会社の仲間は数名のみ（橋梁工事特有か！？）で、あとは別会社に所属する職人達との仕事です。また、現場毎に人は変わるため、人間関係の構築が重要であり、品質・出来形・安全はその上に成り立っていたと思います。これまで30近い現場を経験しましたが、全てが私の財産といえるものです。

この30年で職場環境も大きく様変わりしました。昔は携帯できるような通信デバイスは存在せず、作図や書類作成は手書きが当たり前であったものが、現在では電子デバイスを活用することにより、明らかに便利になりました。

しかしその反面、現在では要求事項が逆に多くなってきたのも事実で、便利になってもやることは多くなったのでは、建設業にも押し寄せてきた働き方改革の波は、現実と乖離していくようにも感じることがあります。

ネガティブな印象ばかりのように思われますが、目標達成のためには、なりふり構わない覚悟で邁進した日々。大変だった経緯があればこそ達成感とやりがいがあり、それ

があるからこそ次に進むことができたように思います。この感覚は学生時代の様々な活動にも通じるものがあつたのではないのでしょうか。

ツライことは100%悪ではないと思います。3Kといわれて久しい土木の業界ですが、携わる全ての人々に働き易い環境を構築し、土木の魅力を伝え、次の担い手を如何に確保するかを悩み考えているのが、現在（今）の近況です。

最後になりましたが、広土会のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。



近況報告

島根支部（16期生）

多久和 豊

島根県支部16期（昭和59年卒業）の多久和豊と申します。

島根県支部では毎年年末に支部総会（忘年会）が行われますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。夕刻から行われる忘年会の前には、日頃硬式テニスに勤しむ若年会員達と共にテニスコートで汗を流すことが恒例となっています。今年還暦を迎える私ですが、まだまだ若手には負けられません。テニスで一戦を交えた後に広土会の皆様と杯を交わせる平穏な日々が再び訪れることを願う今日この頃です。

広工大を卒業して37年になります。卒業後は、故郷島根に帰り「島建コンサルタント株式会社」という総合建設コンサルタントに勤務しています。工大で学んだ土木工学を活かし、入社以来土木設計に携わってきましたが、縁あって3年前から社長職を拝命しています。ということで、少しでも会社のPRをさせていただきます。

島根県は地すべり防止区域数約400箇所と全国4位の地すべり頻発地域であり、災害に対し非常に脆弱な土地を有します。島建コンサルタント株式会社はこのような土地環境下において、昭和47年にいち早くボーリング技術を導入し、地すべり調査や防災設計等の社会資本整備に携わり、今年で創業50周年を迎えます。社員数は約50名ですが、自ら会社をやめる者は少なく、20代の離職者が10年以上ゼロは自慢できていると思っています。社は「和」のもと、個人の評価に大きな差を付けない温〜い感じがいいのかなと思っています。できる社員からは多少の不満もありますが、「どんな仕事も辛く厳しいのだから、仕事以外で厳しくしても（極端な優劣をつけても）大きな効果はない」というのが私（社長）の基本精神です。

島根県は今、若年層の県外流出という大きな問題を抱えています。島根には弊社のような魅力あふれる会社（恐縮です）が数多くありますが、その魅力を発信できていない

ことが要因のひとつだと思っています。「島根のために自分のために島根でがんばる!」と思ってくれる若者を一人でも増やすことを使命とし、今後もチーム島根が一丸となってこの課題に取り組んでいく所存です。

よろしければ弊社のホームページを覗いてみてください。
<https://www.simaken.co.jp/>



近況報告

広島支部副支部長（25期生）
行迫 孝治

広土会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は広島支部で副支部長をしております第25期生の行迫と申します。これまで、広土会の活動にはあまり携わっておりませんでした。微力ながら支部を盛り上げていきたいと思っております。

さて、私は大学を卒業した後に広島県庁へ就職し、現在は出先機関である東部建設事務所三原支所において、災害復旧事業等の防災事業に携わっております。

近年では、豪雨災害等の自然災害が多発し、甚大な被害が発生しております。

広島県では、平成30年7月豪雨により、県の北西部を除く広い範囲で記録的な大雨に襲われ、土砂災害や浸水被害が発生し、多くの尊い命が奪われました。当時私は、県庁の河川課に所属しており、普段は自宅の三原市から県庁まで新幹線通勤をしておりましたが、発災直後は、最寄りの三原駅までのルートが遮断されたため、マイカーで中国自動車道を経由し、県庁に行くしかありませんでした。それから1週間は自宅に帰ることができず、被害情報の収集等に明け暮れ、国土交通省の指導を仰ぎながら、様々な補助事業の採択に向けて奔走しました。

また、被災地で住民説明会を開催した際には、私は県の復旧方針を説明する立場でありましたが、行政への不満や涙ながらに被害を訴える方などの非常に厳しい意見を投げかけられました。

一方で、匿名の方からは、行政に対する感謝の言葉がつけられたクリスマスカードが届くといったうれしい出来事もありました。送り主の方は、おそらく説明会に参加された方で、カードには、『自ら（行政）も被災者であるはずなのに、家や家族のことは二の次で、被災地の復興に尽力されていることへの感謝』の内容でした。普段、我々は、このような感謝の言葉を聞くことが少ないため、これを読んだ際には本当に感激したことを覚えております。

令和3年度は、平成30年災害復旧事業の最終年であり、全ての被災箇所の工事完成を目指し取り組んでいるところ



ヒューマン・コンシャス。
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA
Architectural Contractors Inc.



株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町4番25号 TEL 082-504-5050
呉本店 / 〒737-0051 呉市中央1丁目6番28号 TEL 0823-21-1441
<http://www.masuoka-g.co.jp/>

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社

栗本

代表取締役社長 前川 拓也

〒733-0035

広島市西区南観音7丁目14番20号

TEL (082) 293-8500

FAX (082) 295-8231

【営業所】 岩国

<http://www.kurimoto-gr.co.jp>

明るく伸びる



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 光 暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33番61号

TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581

(支店) 松江 (営業所) 三次

であります。しかしながら、土木技術者や技能労働者等の不足により、計画のとおり進んでいないのが現状です。引き続き建設業に携わられるすべての方々のご支援をいただきながら、復旧・復興に取り組んでまいります。

話題はガラリと変わりまして、昨年私は 50 歳を前にして初のフルマラソンにチャレンジし、予想以上の 3 時間 28 分で完走することができました。今ではすっかり市民ランナーの仲間入りです。現在は、新型コロナウイルスの感染の終息が見えないため、マラソン大会も中止となっておりますが、いつの日か仲間達と一緒にレースに参加し、おいしいお酒を思う存分飲める日が来ることを心待ちにしております。

最後になりますが、広土会の益々の発展と会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「広工大・土木の熱い想いとパワー」
広島県北支部事務局 (29 期生) 和田 賢

皆さま、はじめまして、広土会 広島県北支部 事務局の「和田 賢(まさる)」(29 期生)と申します。

私が広島県北支部に入会して 18 年が経ちました。國原宏明 支部長(10 期生)、加藤雅樹 副支部長(16 期生)のもと、広土会本部を交えての毎年の定期総会および親睦懇親会、支部会員による親睦研修旅行、他県支部との合同交流会など様々な活動を行ってきました。1 期生からの大先輩をはじめ、多くの諸先輩方や後輩が参加してくれました。これまでに 39 期生までは参加してくれたのですが、それ以降の若手 OB がぶつつりと入会してくれていないのが現状です。大変に寂しい限りです。

現在は広島県安芸高田市(三次市と広島市安佐北区の間辺りの市です)で 4 期生の和田一雄 顧問(私の親父です)の後を継承し、「株式会社和田組」に勤務しておりますが、以前は「株式会社フジタ」に勤務しておりました。新入社員のところ、当時の大阪支店に配属が決まり、初めて赴任した和歌山県(かなりの山奥で 1 年間飯場暮らしでした)での山岳トンネル工事の現場で、私の指導員としてお世話になったのが、広工大・土木 OB の方であり、発注者(和歌山県)の担当監督員も、たまたま広工大 OB の方でありました。こんな偶然なことがあるのかなと思うくらい運命的なものを強く感じたことを覚えています。

大阪にいた頃は仕事の関係で数名の OB の方に出会うことが出来ました。それから広島支店へ転勤になり、当然本学のお膝元の広島ではたくさんの OB の方に出会うことができ、今現在も公私ともに様々な場面で OB の方には大変お世話になっております。広工大・土木の大先輩方は後輩

を大変かわいがってくれます。親分肌で情が熱くパワーのある先輩方が多く、ピンチの時はいつも助言していただいております。大変ありがたい存在であり、私にとって皆さまとの出会いは、かけがえのない財産です。

是非、これからの広土会を特に若手 OB の方々で盛り上げて頂きたい。広土会各支部への入会や広土会本部の周年イベント事業に積極的に参加して頂きたい。そして、たくさんの OB の方々と出会い、広工大・土木の「熱い想いとパワー」を感じて頂きたい。経験者の私は心からそう思います。

今年が皆様にとりまして、良い年になりますよう、又新型コロナウイルス感染症が終息できる年になりますよう、心より御祈念申し上げます。



緊急事態宣言
関東支部長 (18 期生) 檜垣 誠

広土会会員の皆様、私は関東支部で支部長を務めさせて頂いております第 18 期(昭和 61 年 3 月卒)の檜垣(ヒガキ)と申します。

関東支部長を拝命し、既にまる 3 年を迎えようとしており、本来なら、昨年の第 27 回関東支部総会、本年の第 28 回関東支部総会で、多くの諸先輩方と将来有望な若手とで、広島での思い出を語りあいながら懇親を深め、その近況報告をここに掲載するはずでしたが、昨年から新型コロナウイルスの影響で、関東支部総会は中止を余儀なくされました。

特に昨年は、若手現役世代の参加を広く求めるために、連絡方法も電子メールの活用や、例年、年度末開催の支部総会を、現役世代が参加しやすい 4 月開催とするなど、新たな取り組みで準備をし、開催日および開催場所もほぼ確定していましたが、支部長判断で中止とさせて頂きました。仮に第 27 回関東支部総会を開催していたなら、2020 年 4 月 7 日に、当時安部総理大臣が 7 都道府県に対して緊急事態宣言を発出された、まったく中での実施となり、当然、諸先輩方の中には持病をお持ちの方もおられることでしょうか、万が一、感染者が関東支部総会参加者の中から出たならと考えれば、その時の決断は、正しかったと今でも確信しております。

2020 年は本来なら、TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックで大盛り上がりとなるはずでしたが、新型コロナウイルス一色のほぼ一年となりました。特に、医療関係者の方々は、不眠不休状態での重症患者さん、入院患者さんの対応で、医療崩壊が叫ばれている昨今においても懸命の医療行為が行われていることに、頭の下がる思いまで

いっぱいです。また、飲食業関係者は時短営業や休業対応で、事業そのものの存続が危うくなっている状況にあります。広土会会員様におかれましては、その多くが建設業関係に携わっておられるものと考えます。中には飲食業をはじめとしてその他の業種でご活躍の方もおられると考えますが、幸い建設業は、飲食業やサービス業ほど制限を大きく掛けられている訳ではなく、コロナ禍にあってもまだ恵まれている方であると感じています(建設業関係者の中には感染者や死亡された方も当然おられます)。

本年も第 27 回関東支部総会開催は未定の状況です(本原稿も緊急事態宣言下での作成です)。ワクチンの早期接種開始、医療従事者の負担軽減と何よりも新型コロナウイルス感染者の大幅な減少と終息宣言を切に祈るばかりです。

最後になりましたが、広土会の益々の発展と、会員様におかれましては新型コロナウイルス感染症に留意され、益々のご活躍をお祈りしております。

卒業だより



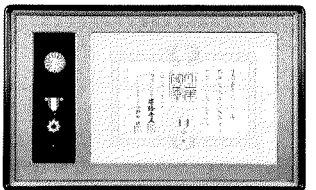
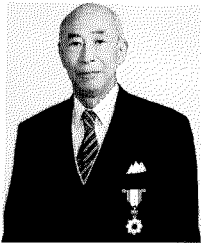
荒谷壽一会長
旭日双光章受賞報告
株式会社荒谷建設コンサルタント取締役
長谷山 弘志

弊社の荒谷壽一会長が令和元年秋の叙勲において、全国測量設計業協会連合会での活動を評価され、国土交通省より旭日双光章を叙勲いただきました。

1 年以上前の事であり、ご存じの方もおられると思いますが、この新型コロナウイルス禍の中で少しでも明るい話題をとということでご指名いた

だきましたので、往時を振り返って少しでも紹介させていただきます。

令和元年 12 月 11 日(水)東京プリンスホテルにおいて叙勲伝達式が行われ、当時の赤羽国土交通省大臣より勲章と表彰状を拝受し、午後からは皇居において、ご夫婦揃って、天皇陛下への拝謁が叶いました。後日、荒谷会長から「自分自身が驚いている。気持ちを新た



総合建設業
占部建設工業株式会社
代表取締役 占部 寛
本社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

皆様からの信頼を財産に
八光建設工業株式会社
HAKKO
本社 〒732-0052 広島市東区光町2-4-23
Tel(082)262-8166(代) Fax(082)263-8189
https://hakkokensetu.co.jp/

人と地球にあたたかな技術、ハートテクノロジー。
海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。人にあたたかな技術を提供し、夢を確かなカタチに育て、感動の明日を築いていきます。
東洋建設
〒101-8501 東京都港区芝浦2-1-1
TEL 03-5561-0100 FAX 03-5561-0101
https://www.toyoko.co.jp

にし、このすばらしい栄誉に浴したことを、多くの方々に教育てていただいた賜物だと、心より感謝いたしている。」との言葉を聞かせていただきました。

このように叙勲伝達式は無事挙行されましたが、祝賀会は新型コロナウイルスの感染拡大に振り回される結果となりました。年が明けて令和2年3月8日(日)にリーガロイヤルホテル広島にて開催予定であった祝賀会は、終息を見込んで一旦延期しましたが、感染拡大は収まらず、結局中止せざるを得ませんでした。

祝賀会の発起人は、広島県測量設計業協会の役員と弊社の社長でした。まぼろしとなった「荒谷壽一氏旭日双光章受章祝賀会」には、全国測量設計業協会の方々をはじめ政界・財界の方々やご友人、ご家族、社員など総勢二百数十名のみなさまからご出席の回答を頂いておりました。叙勲伝達式が無事挙行され、天皇陛下への拝謁が叶ったことは幸いでしたが、祝賀会を開催できなかったことはとても残念でなりません。

今年、弊社は創立105周年を迎えました。今年の秋に予定している、105周年記念式典とともに、受章のお祝いを実現出来ることを願うばかりです。

今後とも地域の皆様の安全・安心確保と持続的な発展のため今まで以上に努力してまいりますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校のますますの発展と同窓生の



皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げ、報告とさせていただきます。

在学生だより

橋梁工学の現場見学について

環境土木工学科

村中 昭典

環境土木工学科では3年次後期に橋梁工学(選択)の科目があります。担当教員は非常勤講師で広島大学名誉教授の藤井 堅先生にお願いしております。この講義の一環として橋梁の現場見学会が以下のとおり実施されましたのでその報告をいたします。

日時: 令和2年12月5日(土) 10:00~17:00

参加者: 受講学生15名、藤井先生、村中、大学広報関係3名(午前中のみ)の合計20名

今回の現場見学会は2会場で午前中は海田高架橋5号橋、午後は広島駅西高架橋で実施しました。

午前中の海田高架橋5号橋は広島県安芸郡海田町内に建設中の東広島バイパス海田高架橋5号橋鋼上部工事で、見学会内容は鋼上部工架設現場見学(写真1)と高力ボルト締付体験学習(写真2)を行いました。

鋼上部工架設見学は高所作業車と橋脚上部からの見学を

行い、この架設工事の工法や特徴等の説明を聞き、その後、高力ボルト締付体験を行った。学生からの感想は、鋼桁架



写真2 高力ボルト締付体験

設においては、3Dの図面で架設方法が適切に実施できるかの検討も行うことが説明され、これからは3Dが必要であることと座学で学んだ高力ボルトについても実際体験することができ、その締め付け軸力の大きさも肌で感じることで大変有意義であったとの声が多かった。午後からは、広島駅西高架橋上部工事の見学を行った。この工事は広島高速5号線の開通により交通量が増加することを見据えた整備事業の一環で駅西高架橋の左折専用レーンを延伸するものである。

工事は既設橋の鉄筋コンクリート床版を一部切断し、新設橋の鉄筋コンクリート床版と縦目地と呼ばれる伸縮装置で連結するものである。実際に伸縮装置を見ることができたこと本学卒業生からの説明や意見交換があり、貴重な時間を過ごすことができました。



写真3 駅西高架橋の見学風景

最後になりましたが、本見学会の開催にあたり、ご協力をいただいた川田工業株式会社、並びにMMブリッジ株式会社には大変お世話になりました心よりお礼を申し上げます。

事務局だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。同封の広土会会費の納入と連絡先確認のお願い用紙の会費納入欄の右欄の○年3月の○が空白、会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をお願い致します。終身年3月の方は会費の納入の必要はありません。

また、18期生の方は会費5,000円納入で終身に移行できますので納入の方よろしくお願いいたします。

広土会のホームページのアドレスは下記のとおりです。広土会50周年記念事業等を閲覧するには、パスワードが必要となっております。パスワードは下記のとおりです。入力間違いないようにお願いいたします。

広土会新聞は会員の情報誌です。今年度は、3期生-50周年、13期生-40周年、23期生-30周年、33期生-10周年、43期生-10周年を迎えます。記念祝賀会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。広土会新聞に投稿記事があれば併せてお願いいたします。

*事務局には専属の事務員がいません。恐れ入りますがご連絡等はFAXかメールにてお願いいたします。

HPアドレス: <http://www.kodokai1968.jp/>

パスワード: kodokai2014

FAX (082) 921-8976

E-mail: kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp

大新グループ

海は私たちのゆりかごです。

大新土木株式会社

(海洋・港湾工事 工事)

大新電工株式会社

(送变电設工事 照明・動力工事 消防設備工事)

ダイユウ技研土木株式会社

(産業廃棄物最終処分場施設 ISO14001)

〒737-0811

広島県呉市西中央3丁目1番31号

TEL: 0823-22-2434 FAX: 0823-22-2439

<http://www.dai-g.co.jp/>

LANDING

山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805

TEL(082)-232-6471 FAX(082)291-2233

<http://www.landingsanyo.co.jp/>

SMART
CONSTRUCTOR

進化するケンセツ

KATO
Construction Co., Ltd.



株式会社 神崎組

代表取締役社長 神崎 文吾

本社 姫路市北条口三丁目22番地
TEL 姫路(079)223-2021(代表)
FAX 姫路(079)281-8191
支店 大阪
事業所 敦賀・三木・岩国